



議会だより

元気なまちづくり!
土庄町

とのしよ

No.45

contents

- 町議会の動き 2~3P
- 常任委員会の活動 4~7P
- 特別委員会の活動 7P
- 一般質問 8~10P
- 編集後記ほか 10P



平成23年
8月5日発行 / 第45号



第9回小学生バレーボール大会 小豆島フレトピアカップ

町議会の動き

6月議会定例会

こんなことが決まりました

6月定例会が6月29日から30日までの2日間の会期で開催され、平成23年度補正予算3件、条例関係4件、人事案件2件、その他2件、また、議員発議による「病院再編調査特別委員会の設置」が提出され、いずれも原案のとおり可決、承認しました。

平成23年度一般会計補正予算 12,316千円増額⇒67億1,635万3千円に

《補正予算 歳出の主な内訳》

- 離島航路運航維持費補助金 △19,038千円
- 自治総合センターコミュニティ助成金 17,500千円
- 介護支援体制緊急整備等特別対策事業 6,714千円
- 緊急雇用創出基金事業 1,402千円
- 農地・土木施設災害復旧事業 2,600千円

条例関係の内容

◆土庄町職員の育児休業等に関する条例が変更されました

育児休業等を行うことができない職員の範囲を見直し、新たに非常勤職員が育児休業をすることができることになった。

◆職員の給与に関する条例が変更されました

従来1か月に60時間を超えた時間外手当について、割増賃金が支払われていたが、その算定には日曜日は対象外であった。今回、日曜日についても算定対象にされた。

◆土庄町母子家庭等医療費支給に関する条例が変更されました。

（教育民生委員会活動報告 P.6に掲載）

◆土庄町景観条例を制定

景観法に基づく行為の届出や事前協議などについて規定するとともに、景観計画を効率的かつ実行性を高めて活用するため制定する。



◆ 工事請負契約の締結について ◆

工 事 名	平成23年度集落活性化推進事業旧大鐸小学校校舎改修建築主体工事
工 事 場 所	土庄町肥土山
請 負 代 金	金 56,070,000円
工事請負人	株式会社佐伯工務店 代表取締役 佐伯 透

◆ 公有水面埋立てについて ◆

土庄港（県道屋形崎小江洲崎線）	
位 置	土庄町大字洲崎字山ノ内地先（大谷地区）
用 途	護岸敷・道路用地

◆ 人 事 案 件 ◆

・ 人権擁護委員候補者の推薦について⇒適任

住 所 土庄町見目甲397番地
氏 名 河 野 宏 宜 氏
(平成23年9月30日をもって任期満了となる田川成子氏の後任に同氏を推薦)

・ 土庄町大鐸財産区管理会財産区管理委員の選任⇒同意

氏 名	住 所
石 原 力	土庄町肥土山甲1167番地
佐 伯 正 美	土庄町肥土山甲2676番地
佐 伯 一	土庄町肥土山甲1981番地1
三 木 千 恵 造	土庄町肥土山甲439番地
清 水 利 隆	土庄町黒岩825番地
佐 竹 久 夫	土庄町小馬越甲652番地
藤 原 正 暉	土庄町笠滝甲324番地

◆6月臨時会で決まったこと◆

6月臨時会が6月3日に開催され、次の議案が可決されました。

○専決処分の承認を求めることについて

- 平成23年度一般会計補正予算(第2号)

⇒1,696千円増額【東日本大震災被災地（仙台市）への職員派遣に伴う支援事業としての旅費など】

○平成23年度一般会計補正予算(第3号)

小学校建設事業に伴う土地購入費など

【1億2,034万1千円増額】

○土地の取得について
小学校建設用地として

22,482.86㎡取得のため



病院再編調査
特別委員会を設置

医師・看護師不足や未耐震建物等の諸問題を含めた小豆医療圏の病院再編等について、調査および研究を行い、質の向上と安定した医療の供給を図るため、本委員会を設置するものである。

委員長 井上 正清
副委員長 泊 満夫
委員 福本 耕太
山田 建之
川本 貴也
山本 良熙
藤本 誠助



7月臨時会
(7月21日)
新小学校調査
特別委員会を設置

新小学校建設に際し、災害時における安全性を考慮し、あらゆる角度から慎重なる調査、検討を加えるため、本委員会を設置するものである。

委員長 藤本 誠助
副委員長 山田 建之
委員 福本 耕太
濱中 幸三
山崎 勝義
佐々木 邦久
川本 貴也

常任委員会の活動

総務建設 常任委員会

(6月10日)

選挙後の初めての委員会
会で、委員も、委員会所
管課長もほとんど入れ替
わっている。そのため今
回は、各課の業務内容、
またこれからの課題につ
いて報告を受けた。

総務課

「土庄町災害時要援護者 避難支援プラン」

災害時に、介護を必要
とする方や障害がある方
など、他者の支援がなけ
れば避難できない在宅の
方を対象とした要援護者
に対する取り組みは、平
成16年の高潮被害以後、
平成18年から民生委員が
主となり取りまとめを行
なっている。今回は、そ
の取り組みを災害時によ
り効果的に活用するため
の計画である。
目的は他者の支援がな

に、防災行政無線、車で
の巡回広報などあらゆる
伝達手段で住民に情報を
伝えていく。

委員より

- ① 戸形地区では、3
つの公民館で津波の避
難所が地区にどこもな
い。
- ② 地区の民生委員が
誰だか知らない人がい
る。
- ③ 消防の分団に出勤
している人の家が危な
い場合がある。
- ④ 自主防災組織自体
が、きちんと整備でき
ていない。

執行部より

現在、要援護者の把
握が個人情報保護条
例などにより難しく、
家族の同意を得た上で
計画をつくり、それを
消防団・自治会などに
渡す。

企画課

・地域活性化支援事業
町内を10地区に分け、
職員と地域の方々によ
り、清掃活動、文化活動

や景観を紹介する看板の
設置を行っている。

・移住交流推進事業

空き家バンクの登録数
が少ないのは、空き家で
あっても、所有者から提
供していただけない場合
が多く、登録件数を増や
すために自治会連絡協議
会などから、空き家情報
の提供をお願いしてい
る。

・地域公共交通確保維持 改善事業

路線バスや離島航路と
も深く係わり合いのある
課題であると考える。

農林水産課

・農業振興地域整備計画 推進事業について

委員より

耕作者が高齢化し、
どんどん少なくなってい
る。耕作地が、猿や
鹿に荒らされ困ってい
る事などから、関係団
体などと十分に検討
し、地域がこれからも
農業ができる体制を作
る計画にしてもらいた
い。

・耕作放棄地対策事業に ついて

委員より

現在、大鐮、唐櫃で
実施しているが、上庄、
北山地区においても耕
作放棄地が出ている。
国・県・町が補助金を
出し、耕作放棄地を解
消する事業を実施して
いただきたい。

建設課

・馬越港港湾整備事業

平成16年から平成26年
までの事業で、本年度は
物揚場工事を行う。

・土庄港周辺整備

土庄港緑地整備事業、
吉ヶ浦4号線事業(社会
資本整備総合交付金事
業)、西土庄港線事業が
あり、本年度に完了予定
である。小豆島の表玄関



西岡ポンプ場

にふさわしい環境整備を実施し、地域再生、地域経済の活性化を目指していきたい。

・ 刈崎都市下水路整備事業

本年度、西岡ポンプ場整備事業を行い管路を一部残し完了予定である。

税 務 課

平成23年度予算では町の自主財源、約22億円のうち町税が約15・3億円、69・5%であり、歳入全体でも23・2%を占めている。

しかし、近年の少子高齢化による人口減・生産年齢人口の減少、景気の低迷等により税収の増加は見込めず、併せて生活困窮・納税意識の低下等で徴収率は低下し、不意ながら滞納額は増加の傾向にある。本年は地方税法に基づく適正・公平な課税事務はもとより、債権管理室創設に伴う庁内の基盤整備とともに、徴収率の向上を目指している。

水 道 課

現在の浄水場の報告、肥土山浄水場の更新計画の状況報告を受けた。肥土山浄水場更新事業に関わる案件は、特別委員会で協議をお願いする。

商工観光課

・ 本年度の事業
小豆島フレトピアカップ、小豆島まつり、瀬戸内国際こども映画祭、土庄町長杯西日本剣道大会等を計画している。
・ コールセンター事業
以前から協議をしていた株式会社テレマーケッ

出 納 室

業務内容と基金の状況
財政調整基金は、平成21年度末で約6億4千2百万であったのが、平成22年度末には、2億8千7百万円積立て、約9億3千万円になる見込みである。



瀬戸内国際こども映画祭2011

～ドリームビッグ! 映画と島遊びの夏休み～
8月20日(土)～28日(日)

教育民生 常任委員会

人権対策課

小海浜改良住宅建替事業は9月完成に向け、第3期工事が建設中で、工事状況を視察した。住宅の完成後は7戸の古い住宅を解体し、周辺道路や多目的広場の整備を行う。
委員より
高潮対策と津波対策についての考えは

中央病院

業務概要の説明。
委員より
患者数が減少しているが、民間の病院に通われていることの影響があるのか。
執行部より
民間の病院もあるし、だいたい8割くらいの方は島内の病院に、約2割は島外の病院に行っている。それと人口の減少がある。また、医師数の減により、外来の薬を今まで2週間に1回出していたのが1か月に1回になると、外来の件数が減少する。入院は、看護師が少ないため、病床を一部使用していない部分もあり、減少してきている。

健康増進課

業務概要の説明。
委員より
子宮頸がんについて、昨年から実施されたが、対象年齢は。
執行部より
中学1年生から高校1年生までを対象としている。しかし去年のワクチン不足のため、高校2年生で接種できてない方がいるので今年度は、中学校1年生から高校2年生を対象

執行部より
家賃は、所得に応じ、決めている。所得の多い人は高く、低い人は家賃について

委員より
高松市の救急艇の使用状況について

執行部より
中央病院は1回の使用であるが、他にも使用しているらしい。
委員より
入院の病床を減らしてきたという事だが、住民の皆さんから「入院がしにくくなった」という声があると思うが。

執行部より

患者を受け入れるにも看護師がなかなか確保できないため、対応できるだけの部屋数しかない。これ以上は難しいところがある。

住民環境課

とじている。

「新し尿処理場・新ごみ最終処分場」の予定地（灘山採石場）を視察。

昨年12月15日からの地元自治会、漁業組合、香川県等の関係団体との交渉経過の説明を受けた。

委員より

灘山は国立公園の地域であり、斜面部分が多いと思うが、緑地化するとかなり高額な費用がかかるが、どうか。

執行部より

採石跡地という事で県と協議をしている。具体的には今の段階では、どのように緑化するかは決まっていない。

委員より

基本的には採石法で採石権者に原状回復の義務があると思う。町が買収したら、原状回復の義務はどうなるのか。

執行部より

県の担当からは、本来は事業者がすべきこ

とであると聞いている。

事業者が採石の廃止手続きを取っていただくので、緑地化なり、防災の設備をどのようにするかは、今後県と協議していく。今は話の途中である。

福祉課

母子家庭等医療費支給事業について

土庄町母子家庭等医療費支給に関する条例の一部改正について、説明があった。

①対象者の拡大

現行制度では県費の2分の1補助を受けて、母子家庭の18歳までの児童とその母親並びに父子家庭の18歳までの児童に係る医療費を助成する制度となっているが、この度、県費の補助要綱が改正され、8月診療分からはこれまで県費補助の対象外となっていた父子家庭の父親が、対象に含まれることとなった。

このため、土庄町も県補助要綱の改正に合わせて条例を改正し、父子家庭

の父についても8月診療分から医療費の助成を行う。現在把握している対象者は9名である。

②条例等の題名変更について

県の補助要綱の改正に伴い、土庄町も条例の題名を「土庄町母子家庭等医療費支給に関する条例」から「土庄町ひとり親家庭等医療費支給に関する条例」に改正することとしている。

土庄町地域福祉計画等について

平成23年度に「土庄町地域福祉計画」「土庄町障害者計画及び障害福祉計画」「土庄町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の3つの計画を策定する予定となっている。

高齢者保健福祉計画は、先月すでにアンケート調査を開始している。

そのほかの地域福祉計画、障害者計画は、今月アンケート調査を発送して回収を始めている状況で、7～8月にかけてそれぞれ計画策定委員会、介護保険については制度

の運営審議会等を立ち上げ、平成24年1月頃を目途に最終計画案を取りまとめ、お知らせする予定である。

委員より

乳幼児の医療費支給事業の対象者は何人くらいか。また、予算は。

執行部より

小学校就学前までになっっているので、650人程度で、予算は1,674万5千円である。

生涯学習課

大部公民館建設・旧大鐸小学校校舎改修について

委員より
大部公民館建設地の、高潮対策についてはどうなのか。避難所になると思うが、高潮対策はクリアしているのか。

執行部より
平成16年の高潮の時の潮位の基準面が3・32mである。香川県によると大部港の高潮対策基準高が3・6mと聞いている。

大部郵便局の前の県道で一番高いところが4・38mあり、高潮の影響を受けていない場所である。今回大部の公民館を建設するにあたり、この県道の一番高いところにあわせるため、造成時に地盤をかさ上げし、さらに基礎でも上がる。

委員より

公民館内に併設する診察室、各部屋について利用者の利用の方法を考え対応するよう、具体的な提案、要望があった。



大部公民館建設予定地現地視察

教育総務課

小学校建設について

(現地視察)

新設小学校建設に関する用地買収に至るまでの協議経過、新設小学校の建設の今後の取り組み方の説明を受けた。

6月9日土地の所有権移転登記が完了した。

土地の面積は222.482・86㎡で現在測量と地質調査を実施している。ボーリング位置については8箇所だが、塩田の中2箇所追加する予定である。現在実施中で詳しいデータは出ていない。基本設計は高松市の設計業者へお願いしている。校舎の建設場所は高潮、津波対策で1m程度は地盤を上げる考えである。しかしそれで防げない津波がきたら場合は、中学校・小学校連携して、富丘八幡宮の方を避難所にするか、今回作る小学校の屋上に避難広場を作るなど計画している。

は杭工事は当然実施するが、現在ボーリング調査は液状化からの被害は防げると思う。あとスクーパルの発着場をどこにするかが決まっていなくて、それに伴い入り口や玄関の場所も変わってくる。

委員より

前回の高潮時はどうだったのか。高潮・津波に対してはどのような科学的見地から掘んでいるのか。

執行部より

王子前埋立は浸かっている。県ホームページでは津波水位2.5mといわれているが、平成16年の高潮は2.51mとほぼ同じ高さ。王子前の埋立地は3・12mで、候補地の護岸は約3.5mの高さがある。津波と高潮は違うので、現在の階段状の親水護岸の津波研究はしないといけない。

委員より

グラウンドが液状化の恐れ、そこに子どもがいた時にどうなるのか。

子どもたちの安全をはかるという観点でできるだけ工事の方で努力はしていくつもりである。

執行部より

3月11日の震災を受け、住民の考えも変わってきている。もう一度声を聞きなおすという事も大事ではないか。

委員より

住民の方も考えが変わった面があるだろうと思っている。そういう事を踏まえ、6月23日に建設検討協議会を開催する予定で、そこで様々な意見を聞きたい。

執行部より

今回の地震は想定外という事が言われているが、東南海の地震も想定外の事があるという危機感をもって事に当たらないといけない。

水道事業 特別委員会

(6月10日)

本委員会は5月臨時会で設置され、初めての開催となった。今までの水道事業調査特別委員会から、委員の構成も変わっている。以前に開催された7回の特別委員会の経過について概略説明を受けた。土庄町水道事業基本計画に基づき、導水ポンプ槽、原水調整池、生物接触ろ過棟、薬品凝集沈殿池、急速ろ過池、配水池、濃縮槽、多段式天日乾燥床などの浄水処理施設や、事務所を兼ねた管理棟、薬品注入棟、倉庫などの建物など、肥土山浄水場更新計画を中心に協議をした。

委員より
汚泥処理の方法は、他の方法も検討しているか。

執行部より

建設費だけでなく、ランニングコスト等を含め、現在の計画である多段式天日乾燥を計画している。機械脱水処理を行っている市町では職員の常駐などが必要となっている。

委員より

更新後の上水トトン

当たりランニングコストは？
減価償却のからみがあり、現在試算中である。

委員より

建設予定地へ落石があった件は？
県で調査が終了し、ワイヤーやネットを張るなど落石防止工事を県が今年度行っていく予定である。また、落石があった周辺には建物を配置しないように計画している。

執行部より

北山浄水場



北山浄水場



川本貴也 議員

コールセンター事業について

川本 地元企業よりコー

ルセンターと託児所を建設したいとの申出があったとの事だが、その後地元企業とはどのような協議をされているのか、またその地元企業以外に対しては、どのような誘致活動を現在行っているのか。

商工観光課長 コールセンター企業から東日本大震災の影響を受け、経営環境も大きく変化し、土庄町へのコールセンター出店は難しいという報告があった。それを受け、町内の出店希望業者から今後は、ディスプレイセンターと託児所のみ、計画を考えるとという主旨の話があったが、その後、町内の出店希望業者から

の情報提供はない。

町長 雇用の促進、地域の活性化を一つの大きな道としてはコールセンター誘致は一つの柱ということで信念は変わっていない。現時点で地元業者をまず優先しようという方針には変わりはないので、今後協議そして善処をしていきたい。

小豆島産オリブ牛の取り組みについて

川本 小豆島産オリブ

牛を観光資源の目玉として町内外で大々的にアピールし、さらなる観光振興に努めていただきたい。また、給食センター等での地産地消についても、現在での取り組みはどうなっているのか。

農林水産課長 町は「オリブ牛」の出荷増量のための取り組みを行っている小豆島オリブ研究会に助成し、香川県等関係機関と連携をとりながら小豆島産オリブ牛の普及促進を図っていききたい。今後は県外に発信できる主なイベントで積極的にPR活動を実施した

6月定例会 一般質問事項

い。

また、小豆島はオリブ栽培発祥の地であり、100年を越えた歴史を誇る地域資源である「オリブ」と「小豆島産オリブ牛」を活用し、県内外での認知度をアップし、消費者向けに普及促進することにより地域活性化を図りたい。

教育長 学校給食にオリブ牛を使うと

なるか、当然子ども達が食することによりオリブ牛のPRになるという観点からも今後地産地消について活用を考慮していきたい。

町長 小豆島オリブ牛の名前を別のブランドとして今申請している。讃岐和牛のオリブ牛と小豆島オリブ牛は違う、小豆島オリブ牛を機会があるごとに大いにPRして、「つくろろう地域ブランド」に力を入れ頑張っていきたい。



山田建之 議員

土庄町立小学校建設予定地の選定経緯について

山田 3月11日東日本大

震災後の地震、津波、液状化現象などの危険に対する対応・討議が十分されたかどうか。

教育総務課長 昨年9月に土庄町立小学校建設検討協議会の協議結果として、教育長に対し答申書が提出され、そして、町の政策経営会議等で協議後、答申書のとおり八代田塩田跡地を新設小学校の候補地とする旨の方針が示された。

ところが3月11日に東日本大震災が起こり、児童の安全性を確保することが課題となった。町は政策経営会議、また町長、副町長との協議を経て、津波による児童の安全の確保について相互の認識

で一致したところである。そのような協議の中から、八代田塩田跡地での小学校建設の方針を再確認し、検討協議会における東日本大震災を踏まえた協議、また、防災に対する専門家の意見にも注視しながら、小学校建設について引き続き慎重に協議し、努力していきたい。また、避難場所については、富丘八幡宮が隣にあるので、小・中連携した避難計画がたえられるのではないかと思っている。

町長 地上げの問題を含め、安全確保の拡大を図ろうという事である。

山田 塩田跡地が学校用地であるいは、避難場所として適切でないという見解が示された場合はどうするのか。

教育長 子どもたちの安全な施設を十分に配慮していけば学校用地として十分に使用できると考えている。また、今後設計、建築確認等の場を通し、国・県の理解、了解はいただけるものと思ってい

る。また、今後設計、建築確認等の場を通し、国・県の理解、了解はいただけるものと思ってい

土庄町における観光産業の位置づけと過去10年間の事業費は

山田 観光産業振興をどうするのか。将来の計画、それに伴う必要資金及びその調達方法は。

町長 観光関連事業費の10年間の年平均決算額は約2,800万となっている。厳しさを増す町予算全体の中で観光費予算の割合は、決して十分ではないが、多様化する観光ニーズに応え、魅力ある観光地とするため、小豆島独自の資源を磨き上げ、第2のエンジェルロードを育てることが重要であると考えている。

必要資金の調達方法は、今後とも行財政改革を断行し、少しでも無駄な支出がないか精査し、国、県からの補助事業費等を最大限活用し、島らしい魅力を広く知らしめることにつなげたい。



泊 満夫 議員

**公共建物・跡地の利
活用について、パブ
リックコメントを求
める考えはないか？**

泊 戸形小学校校舎、プールの今後の取り扱い、さらには今後の小学校統合後の跡地活用等について、町内部のみで検討するのではなく、民間の有識者にパブリックコメントを求める公共建物・土地の利活用委員会を町内に作り、情報公開を公に示し、取り扱いについて整理を図ることが必要と考えるがどうか。

総務課長 小学校の跡地利用については、各小学校毎に自治会や地域の皆さまにご意見や要望を伺い、協議をしながら跡地利用を進めている。旧大鐸・大部小学校について

は、公民館、コミュニティセンターとして建設計画を進めている。旧戸形小学校は、戸形公民館として利用している。その他の利用計画は今後の協議となっている。法務局跡地は1階の駐車場は土庄幼稚園の送迎用駐車場に、3階の宿舎スペースは東日本大震災の被災者の避難所として活用すべく申し出をしている。2階については現在未使用となっている。

使用の場合は電気・水道・ガス・浄化槽の維持管理費が必要となる。今後広くご意見を伺いながら有効な活用方法を考えしていきたい。

自治体においては※パブリックコメント手続きに関する実施要綱を作成しているところが増えてきているが、今後わが町にも必要と思うかどうか。

町長 パブリックコメントについては、行政が政策・制度などを決定する際には広く意見を聞いて

決定していく制度であり、一般的にはこの手法を行っているところは数多くある。

本町においては、景観計画を策定する際に実施した。この手法については今後非常に大切なことだと考えているので、ご指摘いただいた手続き規定を整備し実施するのがよいのか、また政策個々において実施すべきなのか、今後取り組みをしなければならぬところであり、少し検討したい。

※パブリックコメント
条例や計画などの一定の政策に際し、①政策の案と資料を公表し、②それに対する意見や情報を広く募集し、③寄せられた意見を考慮して政策を決定するとともに、④その意見に対する考え方を公表することを行う。



濱中幸三 議員

土庄町景観条例の運用

濱中 条例第4項には「…公共施設整備を行う場合は、景観形成のために先導的な役割を果たさなければならぬ。」と定めている。今年度から取り掛かる小学校の建設予定地域は土庄町でも特に景観の素晴らしい地域である。先導的な役割とは、具体的にどのようなことなのか。

土庄町の観光産業は、美しい自然によって成り立っているところが大きいと思つ。豊島地区では豊島美術館付近の棚田が復活しつつある。景観を維持していくためには、いろいろな規制や基準と同時に、維持費も必要である。町として積極的にこの条例に取り組んでいく心意気を聞かせていた

だきたい。

企画課長 土庄町景観計画は、住民・事業者・行政の協働により、土庄町固有の景観を守り、整え、育て、新しい景観を創りだしていくことを目標としている。

景観計画の方針に基づき①自然の景観②歴史的な景観③都市・集落の景観④文化的な景観の観点から、先人の様々な思い、伝統や文化、地域の自然などを改めて考え、育て、伝えていく。きっかけと、地域に対する住民の愛着と誇りを醸成し、土庄らしさがあふれる活力に満ちたまちづくりにつながるよう景観条例を運用していきたい。

県立土庄高校の再編

濱中 県から小豆郡内に一つの高校という話を聞いた。

わが町の大部地区、豊島地区からの高校への通学を考えれば、現在の土庄高校へ統合することしかない。

町と議会が協働し、町を挙げて、香川県へ強く働きかけることが今最も急がれることだと思つが、町長の決意をお伺いしたい。

町長 島内の高校再編については、土庄町としても大変重要な問題と考え、議長を始め相談しながら強力な運動を展開し、ぜひ土庄に高校が残るように努力していきたいと思つている。





福本耕太 議員

小・中学校の耐震診断、耐震化について

福本 30年以内に東南海地震が起こると言われている。子どもが通う全ての学校舎は即時、耐震診断と耐震化を実施すべきと考えるがいかがか。

教育総務課長 本年度、幼児園と保育所、子育て支援センターの7か所の耐震診断と豊島中学校の屋内運動場の耐震補強設計を実施する。今後の再編・統合の協議状況を考慮・検討しなければならぬ。

福本 丁寧な議論を住民に保証しようとするれば、26年開校は困難。議論中の災害から子どもへの命と安全を守るため、統合の議論と切り離して耐震診断・耐震化を行うべきだと考えるが。

教育総務課長 保育所や

乳幼児医療費助成の年齢引き上げについて

福本 子育て支援と少子化の歯止め、「中学卒業まで医療費の無料化」を実施すべきではないか。単年度実施の場合、必要な予算額は。

福祉課長 新たに2,250万円の予算が必要となる。医療費の公費助成は重要な役割を果たすものと考えているが、町村会を通じ、県に要望するつもりである。

福本 まんのう町などでは独自で実施している。わが町でも実施すべき。

住宅リフォーム助成制度の創設について

福本 全国各地の自治体では「住宅リフォーム助成制度」を創設し、住民の安全な居住空間づくり

と雇用と仕事確保で、地域経済を活性化している。

実施している自治体では、投資額の10倍から20倍の経済波及効果が生まれ、ムダもない。単年度でも実施すべき。

建設課長 財源を見出し難い。

福本 独自努力で地域経済を活性化させてこそ、町財政の健全化にも道が開ける。

財政調整基金（9億3千万円）を取り崩して活用すべきだ。

法務局サテライトの時間延長について

福本 「法務局サテライトは9時から5時までに延長して欲しい」との声が寄せられている。

各関係機関への働きかけを図るべきではないか。

総務課長 要望書を小豆島町と連名で2度提出している。利用状況などを調査のうえ、検討をさせていただきます。

町議会を傍聴してみませんか

町の本会議は、誰でも傍聴できます。町政への知識を深め、身近に感じるためにも、議会をぜひ傍聴して下さい。

詳しくは、**議会事務局（☎62-7011）**へお問い合わせください。

次回町議会は、9月中旬頃から予定しています。

※議会だより表紙掲載の写真を募集いたします。たくさんの方のご応募をお待ちしています。



子ども議会のようす（7月13日開催）
5小学校 118名参加

編集後記

美しい海とオリーブの島、土庄町に移り住んで1年と半年。町民の皆様には日頃より温かく見守っていただき、心からお礼を申し上げます。

多くの犠牲者を出した戦争の終結から、今年で66回目の夏を迎えます。

「二十四の瞳」の作者壺井栄の愛した島で、あらためて命と平和の大切さを考える夏にしたい。

3月11日の東日本大震災と津波、原発事故以来、「わが町の防災対策公共施設は大丈夫か？」と不安の声が多数寄せられています。住民の命と安全を預かる議会の役割と責任は、今まで以上に重大性を帯びています。

公共施設のあり方や防災計画を再検討し、医療・福祉の充実とともに、仕事と雇用を生み出す施策を一刻も早く実現することが求められています。

「防災と福祉の町、土庄町」を住民の皆様と共に、知恵と力を結集して築くため、皆様の一層のご指導、ご協力を心からお願い申し上げます。

〈耕太 記〉